

することが少なく、自分から進んで学習に立ち向かおうとする意欲にも欠ける面が見られる。

福島県標準学力検査の結果でも、文章を読む力が劣り、語句の意味を文脈の中で適切に考えることに抵抗がある。一方、日常の指導について反省してみると、授業の進め方が教師中心であり、児童に活動させてみるという学習活動の位置づけが十分ではなかったのではないか。何のために、どのように学習するのかといった学習の手だてをきちんと指導過程に位置づけた指導がなされなかったのではないかと、いった反省がなされた。

以上のことから、一人一人の児童が意欲的に学習に取り組み、主体的に学びとる力を育てるためには、読んだり書いたり、話したりする活動ができる児童を育てることが必要であると考える本主題を設定した。

二、めざす児童像

- 学習の仕方がわかり、意欲をもって学習に取り組む子ども。
- 主体的に読んだり、書いたり、話したりしながら学び取る子ども。
- 読みに慣れ、読む活動を通して内容を理解する子ども。
- 感想、意見、まとめなどを進んで書き、生活文・実用文へ応用する子ども。

○ 自分の考えを気楽に話し、対話の仕方がわかり、話し合いに積極的に

表1 読む活動・書く活動・話す活動の学年別児童像

	1年	2年	3年
読む活動	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく口を開き、大きな声で読む。 ・はっきりした発音で音読する。 ・文章の内容の大体を理解するために音読する。 ・場面の様子を心に浮かべながら音読する。 ・楽しみながら音読する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音に気をつけて、大きな声で音読する。 ・読点、句点、「 」に注意して音読する。 ・文章の内容を考えながら音読する。 ・想像をふくらませながらよむ。 ・順序を考えながら読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容が表現されるように工夫して音読する。 ・人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読む。 ・要点を理解するために読む。
書く活動	<ul style="list-style-type: none"> ・形、筆順に気をつけて文字を正しく書く。 ・主語と述語が整った文章を書く。 ・大切な文や文章を視写する。 ・長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞「は」「へ」「を」を正しく使う。 ・登場人物の気持ちを吹き出しに書く。 ・絵をかいて場面分けをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞「は」「へ」「を」を正しく使う。 ・事柄の順序を整理して書く。 ・正しく視写したり、簡単なことを聴写する。 ・人物の気持ちを吹き出しに書く。 ・登場人物に手紙を書く。 ・荒筋を書く。 ・物語の内容を考えながら、話の続きを書く。 ・学習した言葉を使って短文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が相手に理解できるように簡単な構成の文章を書く。 ・自分の考えをノートに書く。 ・読んだ内容について感想を書く。 ・初発の感想を書く。 ・荒筋を書く。 ・課題に合わせてサイドラインを引く。 ・人物の気持ちを吹き出しに書く。 ・手紙を書く。(作者に)
話す活動	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声ではっきりした発音で話をする。 ・発表する人の話を正しく聞き取る。 ・全員の前で自分の経験や意見をはっきり話す。 ・読み取ったことを発表したり、二人で話し合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発音に気をつけてはっきりと話す。 ・友達の話、発表を最後まで聞く。 ・順序よく聞き手にわかるように話す。 ・自分が思ったことや感じたことを話す。 ・読みとったことを二人で確かめたり、話し合ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を最後までよく聞き、その内容を正しく聞き取る。 ・自分が話そうとする要点は何かを考えて、筋道をたてて話す。 ・発表しようとすることをメモして、それを見ながら話す。 ・時と場によって声の大きさを変えて話す。 ・グループで話し合ったり、まとめたりする。

参加する子ども。

三、研究の見通しと構想

「児童自らが、どう読み、どう書き、どう話したらよいか」という学習活動の仕方がわかる手だてを講じて学習させたなら、自信をもって学習し、自分の学習成果を認識して、より一層意欲的に読んだり、書いたり、話したりするのではないだろうか。

〈研究の見通しに対する指導の手だて〉

一人一人の児童が意欲的に活動することをねらい、活動そのものに焦点を当て、児童が、読む活動・書く活動・話す活動を意欲的に行うように指導することによって、正しく豊かな国語の力を身につけられるようにする。つまり、「学習活動の仕方がわかる手だてを講ずる」ということは、読む活動の仕方、書く活動の仕方、話す活動の仕方を指導して、児童の身につけさせるということである。しかもそれは、個に応じた指導を大事にすることによってなされるものと考える。

四、授業の基盤づくり

(一) 読む活動、書く活動、話す活動の学年別児童像